

景観プレ・アドバイスにおける
札幌市の助言内容と申出者の意見

市の助言		申出者の意見
1 建築物の意匠等について		
1	<p>建築物の頂部に柱を突き出した意匠について、「存在感が強くなりすぎないか」という懸念があります。「落ち着いたスカイラインと西側の山並みが一体となって眺望される」ことが札幌の景観の特徴の1つであることを踏まえ、また、旧北海道庁との関係において互いが引き立て合う外観となるよう、中景・遠景からの見え方を考慮して、柱の出具合のほか、照明計画や材料の色などを、引き続き、総合的に検討されることを期待します。</p>	<p>頂部の意匠についてはアドバイス部会で頂いた助言を元にCG及び動画の他、模型等で検証を行い、高さを1.5M縮小する方針といたしました。材料の色については現在煉瓦タイル実物サンプルを作成中であり、その色との兼ね合いで木目調PCパネルや他材の色を総合的・相対的に判断決定していく予定です。照明計画についても道庁赤レンガ庁舎との調和を考慮し決定する予定です。</p>
2	<p>れんがの色彩について、冬場には、特に赤みが目立ちやすくなることから、赤みが強いれんがを使用した場合には、存在感が強くなりすぎてしまうことが懸念されます。れんがの色彩や質感の検討に当たっては、旧北海道庁との関係において互いが引き立て合う外観となるよう、冬期間の見え方も考慮するよう、心がけてください。</p>	<p>れんがの色彩についてはアドバイス部会で頂いた助言を元に実物サンプル確認の上で決定する予定です。</p>
3	<p>少し引いた目線からの見え方を考えた場合、木目調の柱の色彩、れんがの色彩や目地の幅、サッシの色彩などのバランスによっては、全体がぼやけた印象となることも考えられます。少し引いた目線からの見え方も考慮し、「縦糸と横糸を紡ぐ」というコンセプトを踏まえ、全体のバランスを注意深く検討してください。</p>	<p>縦糸と横糸の関係性が色彩によってぼやけた印象とならないように、全体バランスの中で検討致します。</p>
4	<p>JR札幌駅からの来訪者にとっては、建築物北面の見え方も景観を構成する重要な要素となります。JR札幌駅南口広場側からの見え方を考慮し、「バックヤードのような印象」を少しでも和らげることができないか、検討してください。</p>	<p>北側からのアプローチ外壁材や、手前に広く見える車路部の材料を再検討し、バックヤードのような印象に捉えられない設えを検討致します。(現状はアスファルト舗装からピンコロ舗装に変更を予定しております。また機械式駐車場入口両脇に花壇を設ける予定です。)</p>
2 外構・植栽について		
1	<p>前面道路際の花壇は、歩行者にとって景観を構成する重要な要素となります。花壇の設えを検討するにあたっては、歩行者から見て心地よい花壇となるよう心がけてください。(部会においては</p>	<p>協力会社であるキタバ・ランドスケープ様の見解も交え、やわらかい印象の花壇を形成できるように検討致します。</p>

	「花壇が街並みから突出しているような印象を受ける」ことから、「歩行者にとって、やわらかい印象を受けとめられるものとなるとよい」との意見がありました。）	
2	西側の隣地境界部分の設えについては、隣接する通り抜けオープンスペースとの連携を図ることで、当該オープンスペースがよりよい空間となるように計画されることを期待します。	西側の公開空地进行を保有されております日本生命様とも今後打合せを進め、街に対してより良い植栽空間となるよう検討致します。
3 駐車場・車路について		
1	1階の駐車場や車路は、建築物の間口に占める割合も大きく、歩行者から目立つ部分になるものと考えられます。駐車場や車路の路面の設えについては、壁面に使用するれんがとの調和を考慮し、使用する材料や工法等を検討してください。	北側からのアプローチと共に車路もホテルの格式に寄与するため、コストとのバランスの中で材質の選定を行います。（現状はアスファルト舗装からピンコロ舗装に変更を予定しております。）
2	1階の駐車場や車路の出入口のサイン計画については、歩行者に対する安全性と、建築計画との調和の両立が図られるよう、建築計画にあわせて、あらかじめ検討するようにしてください。	歩行者の安全性と共に街並み向上に貢献できるよう、サイン計画を検討しています。
4 その他		
1	建築物の頂部からの落雪や雪庇が発生しないよう、入念に検討してください。	下記対策を施すことで落雪や雪庇が発生しないように対処します。 1. 南面柱型から2Mの笠木範囲に融雪ヒーターを設置します。 2. 融雪ヒーターが故障した際等に雪庇が出来た際の対策として、笠木先端を雪庇カッター形状とします。 3. 頂部笠木形状をフラット形状から勾配形状に変更します。（南から北側に1/10下降勾配）
2	本計画は、様々な要素が関係する非常に難しい計画であることから、意匠、外構、サインなどが、それぞればらばらなデザインとならないよう、引き続き、設計者による「トータルデザイン」により、計画を進められることを期待します。なお、部会において、旧林業会館の館銘板を引き継ぎたいとの説明がありましたが、このような歴史を引き継ぎ、大切にしていくことは非常に重要なことであると考えます。「トータルデザイン」の視点を持ちつつも、当該館銘板をうまく生かし、計画されることを期待します。	アドバイス部会で頂いた助言を元に、様々な要素がばらばらなデザインとならないよう、引き続きデザインコントロールを図りながらプロジェクトを推進致します。